

令和4年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業  
**キックオフミーティング 配布資料**

活動団体名：天理市環境連絡協議会

活動地域：天理市

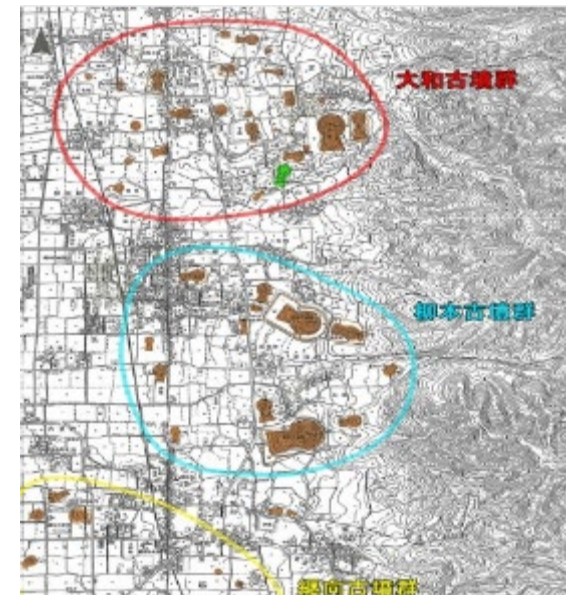
活動におけるテーマ

『 **エコシティ天理SDGsの推進** 』

本事業への関わり：2年目

# 天理市の概要

- 人口 63,000人
- 歴史、文化、宗教
- 教育、スポーツ
- ベッドタウン
- 農地、里山、山の辺の道



# 活動団体紹介 天理市環境連絡協議会の概要

- ・設立:天理市環境基本計画のもと、地域連携と協働の場として2015年2月に設立
- ・構成:市民、市民団体、事業者、学識経験者、天理市
- ・活動:天理の環境をより良い状態で次世代に引き継ぐこと目的に5つ部会で活動
  - ＜緑の保全部会＞
  - ＜ストップ温暖化部会＞
  - ＜まちづくり・観光部会＞
  - ＜ごみ減量部会＞
  - ＜環境教育部会＞



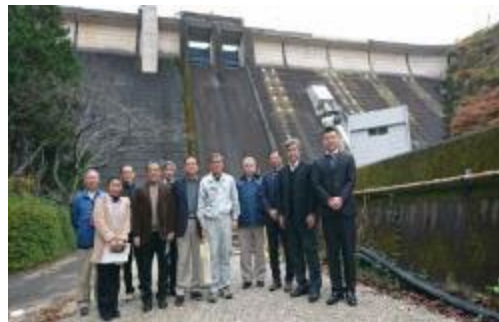
落ち葉かき(肥料に活用)



布留川清掃(ホタルが棲息)



環境フォーラム



天理ダム視察(小水力発電)



子ども工作教室(ソーラーランタン) 2

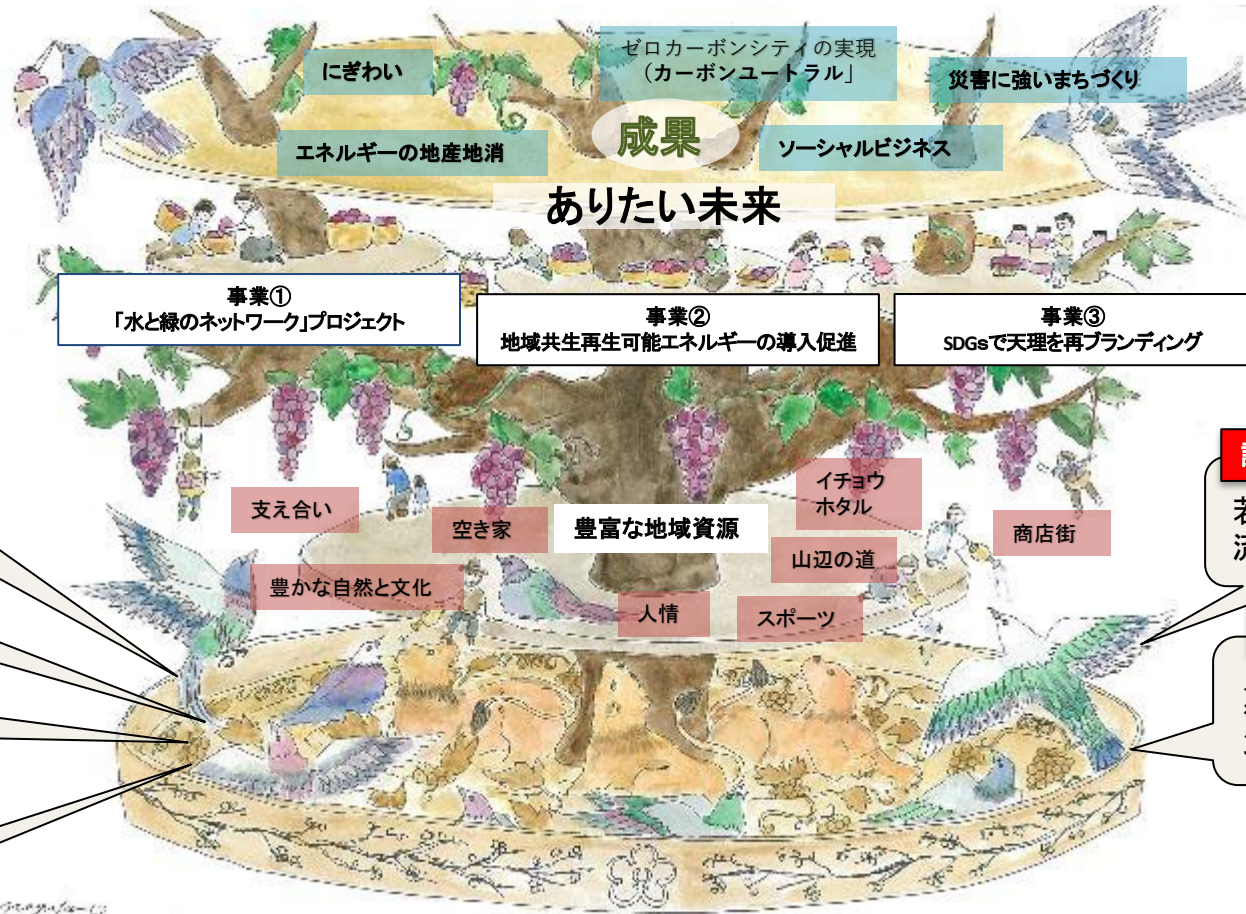


# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

地域循環共生圏  
エコシティ・天理

サトの豊かさ  
これからも住み続けたいまち天理  
マチの魅力

ありたい未来：市民や事業者が連携し、人々が愛着や生きがいを持ちながら、いつまでも安心して暮らせるまち



課題

商店街の衰退と  
空き店舗対策

課題

耕作放棄地・  
空き家対策

課題

ゼロカーボン  
シティの実現

課題

モビリティ

課題

若者の市外  
流出超過

課題

里山の荒廃、  
街路樹のメン  
テナンス

立体マンダラの底辺に据えたのは市内で出土した「海獣葡萄鏡」(8世紀)です。地域の歴史や文化に育まれて、いまの天理市があることから原点として捉えました。動き出した海獣や鳥たち、葡萄の木が豊かな実を突らせながら未来に伸びて、人々が日々の生活をしています。地域の取材をしてくれた大学生が描いてくれました。葡萄鏡の縁には天理市の市章と市の花「梅花」があらわれていることにも着目してください。

# 活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して解決したい地域課題

地域のありたい未来

- ・人口減少、商店街の空洞化、農家の高齢化、増加する耕作放棄地への対処。また、大学、高校を卒業した若年層の地域への定着
- ・ゼロカーボンシティホテルの実現のためには地域共生再エネ導入が課題
- ・自然環境資源の整備と活用

地域の自然、歴史、文化を活かしながら、より良い市民生活ができるよう、エコロジー・エコノミーの両立と災害に強いまちを目指す

「環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ」

- ・水と緑、里山の保全から環境ビジネス創出に向けたステークホルダー協働体制を構築。
- ・レジリエンス再エネをPPA手法等で公共施設、民間等導入できるよう行政との連携することや営農型ソーラーの導入に向け、農家とビジネスパートナー、再エネ事業者の協働体制の構築。
- ・学生のアイデアを取入れ商店街再生、地域ブランド化、休耕田活用や、環境講座を天理大学で開催、市民に広げる。また、宿泊型体験教育ビジネス創出に向け、大手ツアー事業者とも連携。

想定している資源

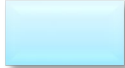
大学、宗教文化が立地し教育環境に恵まれた地域で、歴史的史跡が豊富である。さらに、ホテルが棲息する川や7 kmにわたるイチヨウ並木の街路樹があり、里山や農地が豊富にある。また、天理市は環境意識が高く、2021年3月天理市役所はゼロカーボンシティを宣言、取組みを進めている。

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

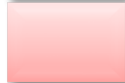
2023年3月 1年後の地域プラットフォームのイメージ

←新たに<sup>ステークホルダー</sup>加わってほしいSH

現時点のSH →



追加のSH →



- ESG投資に意欲的な損保・生保、企業、金融機関
- 環境体験、エコツーリズム主催企業
- 地域の農業経営者、農業法人や農業進出に関心ある団体
- 地域ブランド商品化企業
- 地域に多くの施設があり、影響力のある宗教団体

←想定している課題・阻害要因

- 事業化を進める地域組織
- 行政の横断的連携
- 農業経営者の意識
- 森林所有者の把握

# 地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

## 地域のありたい未来

自然、歴史、文化を活かしながら良い市民生活ができるよう、自然との共生、脱炭素が進み、災害に強く、エコロジー・エコノミーの両立ができているまち

## 地域のありたい未来を実現するために、中長期的に見て必要な取組や仕組みは何か

- ・SDGsの森づくりや地域の自然を生かした商品開発と、イチョウ、ホテル等の環境をアピールしたエコツーリズムビジネス創出。
- ・地域と共生する再エネの導入拡大によるゼロカーボンシティ実現、地域再エネ電力ビジネスによる地域経済向上を目指す。
- ・賑わいあるまちづくりをめざし、地域ブランド化、商店街再生、環境講座の開設とさらに宿泊型体験教育プランを実現し、全国の学生やインバウンド観光客を誘致する。

## 今年度取り組みたい事（本事業でチャレンジしたい事）

- ・天理の自然、歴史、文化財を生かした山の辺の道・SDGsエコミュージアムの構想検討
- ・地域共生再エネモデル事例の具体化、地域共生再エネ電力事業構想検討
- ・ガストロノミーツーリズムにエコロジーを組み合わせて、エコシティ天理の地域資源を訪ねるツアーの具体化
- ・まほろばエコロジー講座」を開講し、大学生を中心に環境人材を養成して、大学生たちの行動を原動力に、市民の環境意識を高める



# 年間スケジュール

